

妖 照手姫

およそ六百年の昔の話、京都で生まれた小栗判官（以下「小栗」）は、深泥池の大蛇と愛を深めたことで父の怒りを買ひ、母の里である常陸の国（茨城県）に流されてしまいます。そこで相模の豪族、横山氏の長女 照手姫と出会い恋に落ちました。しかし二人の関係に立腹した横山氏は、小栗と家臣に毒を飲ませ殺してしまいます。

あの世の入り口で小栗は閻魔大王の裁きを受けることになりましたが、閻魔大王は家来たちの主人を思う気持ちに免じて、小栗をもう一度娑婆へ戻すこととし、「この者、熊野本宮湯の峯の湯に浸けよ」と木札を付け藤沢（神奈川県）の上人のもとへ餓鬼阿弥の姿で送り返しました。藤沢の上人は小栗を土車に乗せ「一引き引いたは千僧供養、二引き引いたは万僧供養」と書いた札を首にかけ、湯の峯に向けて旅立たせました。

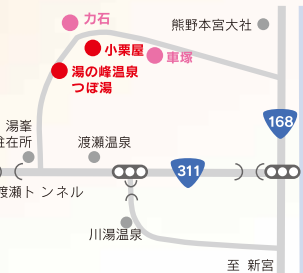
一方、照手姫は恋人を失った上、父の命を受けた兄弟の策略により流浪の身となり、美濃の国（岐阜県）、青墓の宿に行き着き、常陸小萩という呼名で水汲み女として働いていました。ある日、餓鬼阿弥を乗せた土車が宿の前まで引かれてきて、そこで全く動かなくなりましたが、照手姫が引くと不思議と動きます。照手姫は亡き小栗の供養になればと主人の許しを得て湯の峯へ参詣に旅立つことを決意しました。

それから長い道のりを経て、熊野の地に入りましたが、湯の峯間近の高峰「三日森」はとても険しく、女の身で餓鬼阿弥を乗せた土車は思うように進まず、この山を越えるのに三日も掛かりました。そうして、ついに湯の峯にたどりついた照手姫は、餓鬼阿弥を四十九日の間つば湯に浸けて湯治させたところ、なんと元の小栗に戻り、感動の再会を果たしたといえます。

「三日森」をはじめとする小栗判官が通った道は、小栗街道と呼ばれて、ところどころ熊野古道をはずれた道となっています。それはおそらく病気などの人たちがひっそりと熊野参詣に向かった祈りの道であると考えられています。

●温泉民宿 小栗屋

小栗判官ゆかりの宿。主人の安井さんは小栗伝説や熊野信仰にくわしく、色々と話を聞かせてくれる。
 田辺市本宮町湯峯161
 ☎0735-42-0103



寄り道ぐるめ

「湯筒の温泉卵」

湯の峰温泉のほぼ中心地に湯筒があり、卵を浸けて温泉卵が楽しめる。浸ける時間で好みの温泉卵が楽しめる。

●湯の峰温泉

日本最古の温泉といわれており、小栗判官が蘇生した「つば湯」は世界遺産に登録されている。また近くには「カ石」「車塚」など判官ゆかりのスポットもある。

田辺市本宮町湯峯地内

●東光寺

小栗判官が旅の途中、枇杷の葉湯で湯治したと伝えられており、土車を引く照手姫の絵画も所蔵されている。
 田辺市印南2332
 ☎0738-42-0266



●救馬溪観音

照手姫が旅の途中に立ち寄り道中の無事を祈ったといわれ、小栗判官が小栗家再興後、報恩謝徳のため本堂を再建したと伝えられる。
 田辺市上富田町生馬313
 ☎0739-47-1140

